資料２

KOSENの英語教育と海外連携

第６回 高専の機能強化に関する検討会

2026年10月21日

秋田工業高等専門学校

副校長（国際担当）西野 智路



高専生に英語教育/国際化が,なぜ重要なのか

～「高い技術力×グローバルコミュニケーション能力」を持つ技術者が求められる背景～



企業のリアルな課題　製造業の約半数が英語人材の不足を成長の壁と捉えている

- 企業の **45.6%** が「**英語能力を有する人材の不足**」を成長上の課題に挙げている[1)]。
- 製品マニュアルの英語化や海外拠点との仕様調整が日常化している。技術がわかるだけでなく、英語で技術を議論・説明できる技術者が強く求められている。

開発のスピード感　通訳を挟まない即時性と情報アクセス

- 現場の要請：最新技術論文や規格の多くは英語。通訳・翻訳を挟むことなく、**英語でダイレクトに情報収集・交渉できる力が必須**となっている。

地域産業（秋田）のニーズ　洋上風力発電などグローバルプロジェクト

- 地域連携：地元・秋田がグリーンエネルギーのグローバル拠点となる中、海外のエンジニアと対等にプロジェクトを推進できる工学知識×英語実践力を兼ね備えた技術者の育成が強く期待されいている。



1) 文部科学省「社会で求められる総合的な英語能力に関する調査」（2022年）

秋田高専のグローバルエンジニア育成

「5年間のうちに1度は世界へ挑め」を掲げた段階的育成モデル

① **段階的な語学教育**（低学年からの体験型実践的英語プログラムを導入。外国人教員や国際教養大学（AIU）と連携した充実した指導体制）

② **多様な海外研修**（提携校との双方向交流プログラムを実施。帰国後は報告会やショート動画を通して現地の学びを学内に共有）

③ **キャンパス内の国際化**（KOSEN Global Camp をはじめとする，学内での国際交流機会の拡充）

④ **柔軟な授業編成**（最大5ヶ月間のグローバルエンジニア実践研修）

⑤ **専門教育と連携した実践英語教育**（短期留学生の研究室受入れ，卒研生と交流）

① 段階的な語学教育（グローバルエンジニア育成マップ）

専門教育を土台に，学年が進むにつれて「英語を学ぶ」から「英語で学び，海外で実践する」へ



国際交流プログラム
全員参加，英語漬けプログラム



English Village
国際教養大学で2泊3日の国内留学

英語会話
オール イングリッシュ授業

総合英語
TOEIC対策演習



グローバルエンジニア
実践研修
5ヶ月間の海外留学

グローバル
エンジニア



1年 → 2年 → 3年 → 4年 → 5年

海外への興味・関心を高める英語力基礎の育成（**知的好奇心刺激**）

留学生と交流する国内留学で異文化空間体験（**基礎力育成**）

英語を用いたｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸや協働作業（**ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力育成**）

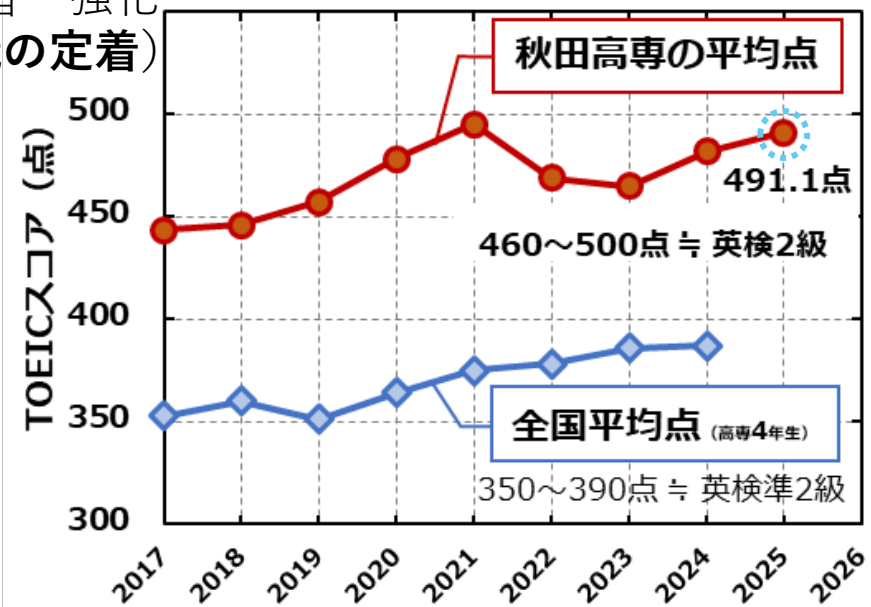
長文読解力・リスニング力の演習・強化（**知識の定着**）

現地の授業や研究に挑戦（**エンジニア実践**）

モチベーションを高める単位認定と目標設定

- 英検やTOEICなどを単位修得条件へ組み込み
- 学年に応じて目標スコアを段階的に設定
- 海外研修への参加も単位修得の要件化

検定試験や海外研修成果を単位認定と連動させるとともに、学年ごとに段階的な目標スコアを設定。学生が自主的に学びを深め、着実にステップアップできる学習環境を整えています。

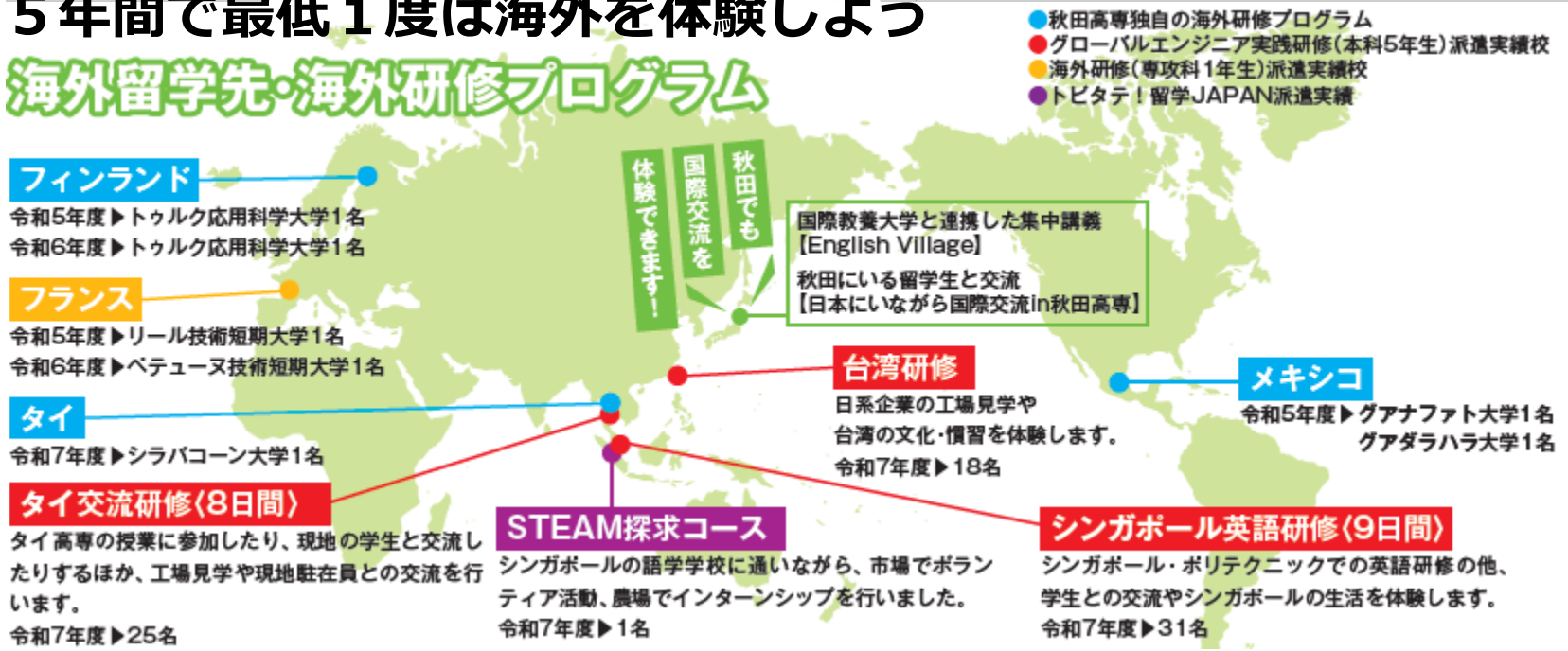


本科4年生のTOEIC平均点の推移

② 多様な海外研修

－海外研修全員化－

５年間で最低１度は海外を体験しよう



研究実践型研修（グローバルエンジニア実践研修）　英語研修　学生交流型研修



学内掲示ポスター

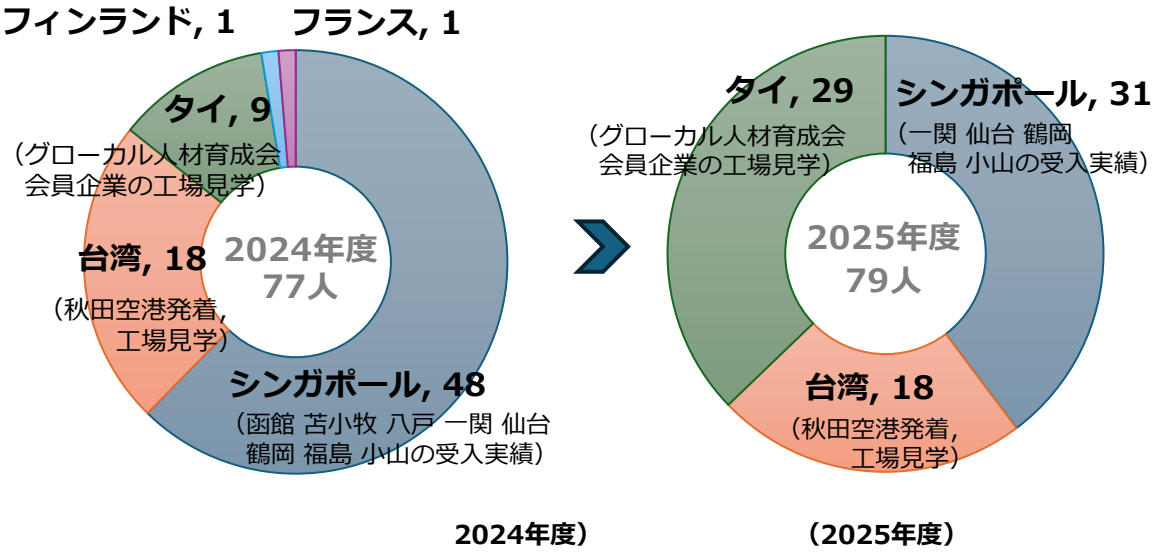
シンガポール英語研修：シンガポールポリテクニック
タイ交流研修：タイ高専（KOSEN-KMITL, KOSEN KMUTT），シラパコーン大学
モンゴル交流研修：エルデネト高専
台湾研修：（海外で働くOB/OGを訪問する海外工場見学）

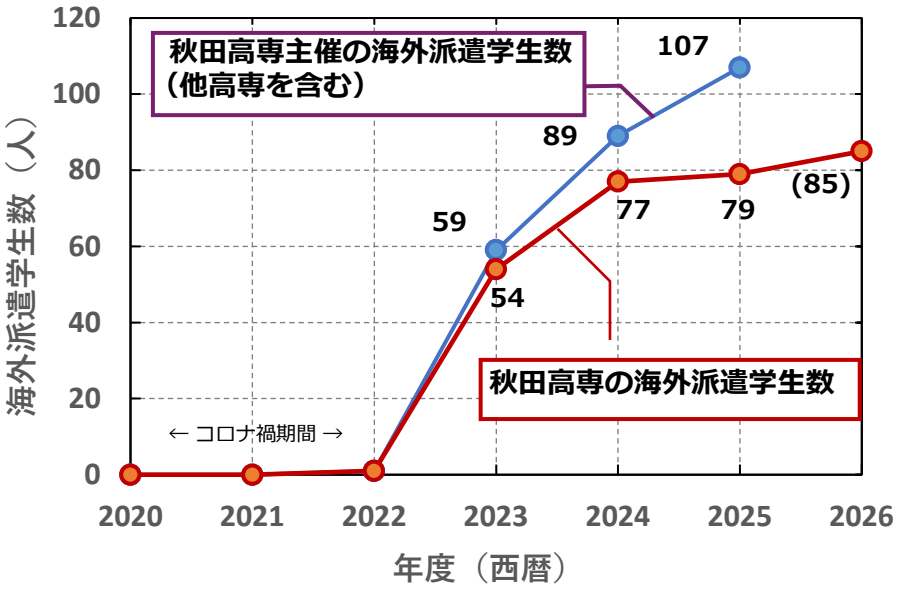


他高専，他大学との連携による多様なプログラム

○ フランス･フィンランドへのコンソーシアムを通じた学生派遣・受入れ
○ シンガポール英語研修の他高専受入れ
○ モンゴル交流研修の秋田県立大学との共同実施

学年や目的に合わせたプログラム構成により”5年間で最低1度の海外体験”を目指す





相互交流サイクルと学生インフルエンサーの育成

○「学ぶ→挑戦する→発信する→迎える」の循環モデル：海外研修への参加にとどまらず，現地で交流した学生を受け入れる相互交流体制を構築。学生自身が体験を発信して次の国際交流を支える循環を確立。





海外派遣学生数の推移



海外研修ショート動画紹介ポスター

③ キャンパス内の国際化 キャンパスで世界を実感



留学生の受入れ拡大と日常的な異文化交流を通じた高専教育の高度化・国際化
学生の受入れと派遣の相互交流

3年次編入留学生（ R7 7人，R8 7人）

- R7 タイ２人，モンゴル２人，マレーシア２人，ラオス１人
- R8 タイ２人，モンゴル２人，マレーシア２人，インドネシア１人



フランス/フィンランド短期留学生 3ヵ月研修（R7 2人，R8 5人）

- リール技術短期大学, ヴァランシエンヌ技術短期大学, トゥルク応用科学大学



タイ高専学生1ヵ月研修（R7 10人，R8 24人）

- プロジェクトワーク（日本人学生との研究体験）
- 企業見学（日系企業で最先端モノづくり現場体験）
  TDK株式会社, ミネベアミツミ株式会社, エイブリック株式会社
- 学内交流プログラム（茶道部体験）



タイ シラパコーン大8日間交流プログラム（R7 6人, R8 6人）

- 本校研究活動体験（化学太陽電池作成体験）
- 日本文化体験（おりがみ，習字，茶道）
- 企業見学（東部ガス株式会社 秋田LNG基地）





KOSEN Global Camp（6人）

KOSEN Global Camp



オンキャンパス内の国際化のために、留学生の受入れ拡大を図り、日本人学生と留学生が切磋琢磨する教育環境の整備に資するため、高専生と海外学生が1週間程度、実験・実習をメインとした内容でともに英語で受講するプログラム

期　　間　2026年3月1日（日）～7日（土）

テ ー マ　再生可能エネルギー（風力）を活用した地域共生と活性化について考える

⇒ 少子高齢化の課題先進地・秋田で，風力エネルギーを地域資源と捉え，持続可能な未来を構想する

参加学生　タイ，モンゴル，シンガポールからの留学生を含む24名

※ さくらサイエンスプログラム



Photo Scavenger Hunt



紙コップ風車づくり



日本文化体験

KOSEN Global Camp in AKITA スケジュール （会場：秋田高専テクノコミュニティー，秋田カレッジプラザ（3月6日））

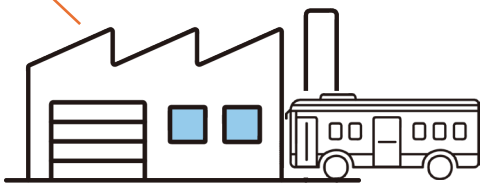
	3月2日（月）	3月3日（火）	3月4日（水）	3月5日（木）	3月6日（金）
9:00	オリエンテーション キャンパスツアー	工場見学 ① バイオマス発電施設	講演会 @能代山本広域交流センター 本田明弘 先生	グループワーク ③	グループワーク ⑥ @カレッジプラザ （フィールドリサーチ）
10:00	アイスブレーク活動			グループワーク ④ （ショートプレゼン）	グループワーク ⑦ @カレッジプラザ
11:00	昼食（弁当）	昼食（弁当）	昼食	昼食（餅つき）	昼食
12:00	現地視察 男鹿駅周辺	グループワーク ① （ブレインストーミング）	工場見学 ② 風の松原，JAXAロケット実験場	グループワーク ⑤	報告会・修了式 @カレッジプラザ講堂
13:00	文化体験 なまはげ伝承館	グループワーク ②			
14:00					
15:00					
16:00					
17:00					



ブレインストーミング



専門家による講演会



フィールドワーク



フィールドリサーチ



餅つき大会



グループワーク

タイ高専プロジェクト 1カ月研修受入れ

タイの産業政策「タイランド4.0」に対応できる，実践的かつ革新的な高度技術者を育成するための政府開発援助（ODA）「タイ高専プロジェクト」の一環として実施。2025年度は10名，2026年度は24名が来校。

① プロジェクトワーク・専門授業

AIによる顔認証実習，マイコンを用いたライントレースカー制作など，タイ高専単独では実施が難しい先進的な実習内容に挑戦。本校学生とともに技術力の向上と協力関係の構築を図る。

② 企業見学

TDK㈱、ミネベアミツミ㈱、 エイブリック㈱など，タイにも拠点を持つ日系グローバル企業を訪問。最先端技術やモノづくりの現場に触れ，産業への理解を深める。

③ 学内交流イベント

茶道部での日本文化体験や学校祭への参加，本校学生との異文化交流を実施し，相互理解と親睦を深める。

④ 学内連携企画

図書館にてタイの歴史や文化を紹介するタイフェアを開催（2025年度）。より多くの学生がタイ文化に触れる機会を創出し，キャンパス全体におけるグローバルマインド醸成に貢献する。











④ 柔軟な授業編成 グローバルエンジニア実践研修

研究実践型研修

グローバルな視点とコミュニケーション能力，高いエンジニアリング能力を同時に身につけ，企業や大学で活躍される人材の育成

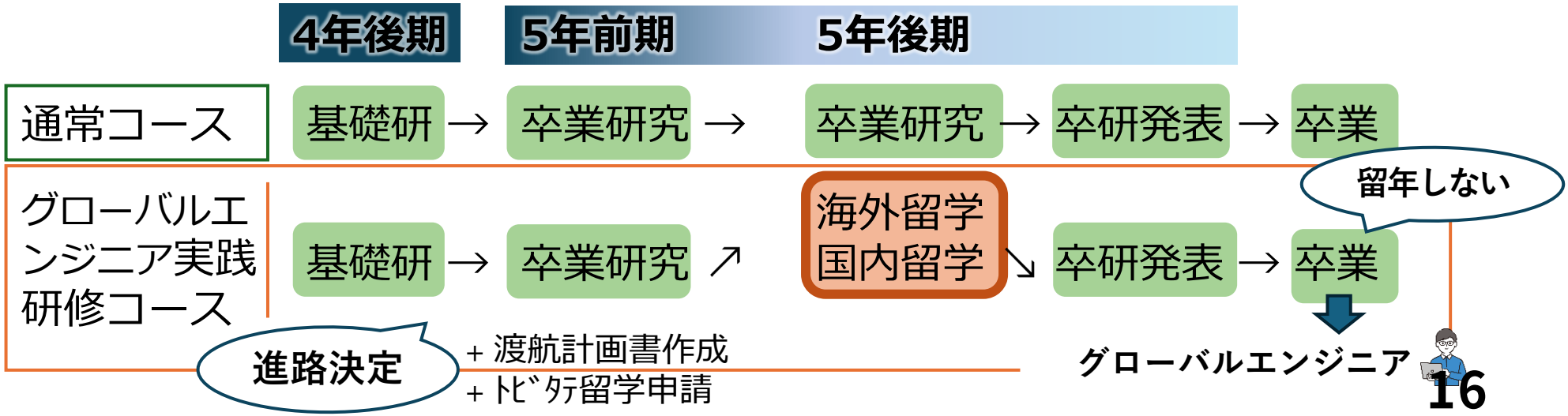
- **５年後期に５ヶ月間の留学**（長期海外研修）
- **５年生の授業を前期に集中**（留年させない工夫）
- **国内留学や長期インターンシップと組み合わせ可**

  今年度は フランスリール技術短期大学と
  フィンランド トゥルク応用科学大学



これまで フランス リール技術短期大学，フィンランド トゥルク応用科学大学， メキシコ グアナファト大学とグアダラハラ大学，タイ シラパコーン大学などで実施

4,5年次における研究の流れ



⑤ 専門教育と連携した実践英語教育

専門分野の英語論文作成や技術プレゼンなど，実務・研究に直結する実践的英語力の習得

短期留学生の研究室受入れ（編入留学生はクラス受入れ）

- 海外の協定校から留学生を各研究室で直接受け入れ，本校学生と共同研究を遂行。研究成果のプレゼンテーションまでを研究室で実施

フランス（リール IUT），
フィンランド（トゥルク応用科学大 TUAS），
タイ（シラパコーン大 SU）など

海外経験を有する教員による専門指導

- 在外研究員制度やタイ高専プロジェクト教員派遣制度などによる現地勤務経験を有する専門系教員による学生実験や研究指導における英語併用指導の展開

各専門系に1人以上の外国籍，あるいは海外勤務経験教員が在籍

海外大学との連携研究の推進（検討中）

- 海外の協定・提携校との間で，国際的な共同研究プロジェクトへの参画・外部資金への申請などの連携の検討









挑戦を後押しする留学/海外研修支援制度

奨学金給付や経済的支援・渡航前後のサポート体制により，学生の積極的な挑戦をバックアップ

学業面のサポート（柔軟なカリキュラムと単位認定）

- 5年生の授業を前期に集中配置し，休学することなく長期留学に参加しやすい環境を構築　また，海外研修の成果を単位として認定

経済的支援（奨学金・補助制度）

- 高専機構予算などの補助制度：経済的な負担を軽減し，より多くの学生が海外経験へ一歩を踏み出せるよう支援
- 海外研修支援奨励費（グローカル人材育成会奨励費）：成績優秀学生の海外挑戦を重点的に支援

多様な選択肢（プログラムの拡充）

- 他大学や他高専との合同プログラム，海外で働くOBを訪問する海外工場見学など，多様なニーズに応える海外研修プログラムを拡充

日本型高等専門学校教育制度(KOSEN)の導入支援

諸外国の要請等に基づき，外国における「日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）」導入支援 として，教育課程の編成支援や，当該国の教職員に対する実践的な研修等を実施するとともに，導入支援を国際交流の機会としても活用し，KOSENの導入支援と国立高専の国際化を一体的に推進している。

秋田高専の支援例





- **タイ**（*KOSEN-KMITL, KOSEN KMUTT*）
  本校教員２名がそれぞれ２年間派遣（2023年～2027年）
- **モンゴル**（*エルデネト高専*）
  学生交流協定に基づいた相互訪問。日本語でのオンライン交流会の実施，共同研究等の検討
- **ベトナム**（*ホーチミン市工業大学*）
  JICAの「ホーチミン工業大学重化学工業人材育成支援プロジェクト」、長期専門家として２名がそれぞれ１年間派遣（2014年～2016年）
- **エジプト**

高専機構などとも連携した取組み

全国の高専ネットワークや高専機構のグローバル事業・他校連携を活用した教育展開





高専機構主催「KOSEN国際化シンポジウム」の開催

- 教職員の国際化意識の向上や，国際業務・グローバル教育を担う人材の育成を目的としたシンポジウムを開催（2025年）

「グローバルエンジニアプログラム公開授業」の開催

- 本校で実施されている「１年生英語教育」プログラムを他高専の皆様にご覧いただく機会を提供（2025年，2026年）

在外研究員派遣

- シンガポール国立大学へ教員を派遣（2027年予定）

グローバルSD研修への職員派遣

- グローバルSD研修へ職員を派遣（2025年）

今後の課題と持続可能な展開に向けた展望

教員負担の軽減・日本語教育の強化・国際寮の基盤整備による，持続可能な国際化体制の構築

海外研修引率教員，留学生受入れ研究室の確保

- 海外研修における引率教員の確保および留学生を受入れる研究室の負担分散と拡充

日本語教育環境の整備

- 専任の日本語教員不在課題への対応と，学内における日本語学修サポート体制の構築

留学生支援体制の拡充

- 国際交流同好会などの学生組織の運用を通じ，学生が主体的に企画し，日常的に交流できる環境の整備